

人生の困難を 突破 する 力

小野寺佑太 幻冬舎

(はじめに) 人生において困難はつきものです。

ある日突然、自分の意思とは無関係に困難が降りかかり、思い悩まされる事があるでしょう、私の 30 数年間の人生は、次々と現れる困難との戦いの連続でした。

小学校 4 年生の時には、J リーガーを目指して強豪チームに自から進んで移籍、しかし中学生になると両親の離婚と環境の変化で不良少年に、家出同然で実家から飛び出し私生活は荒み切ったものでした。15 歳で日雇いの仕事を開始、時を同じくして同棲を始めた女性との間に子供を授かり 17 歳で父親に。18 歳で立ち上げた会社を年商 1 億円の企業に若社長と言われ、いい気になっていた事も、しかしリーマンショックで仕事は激減そんな中、妻子は私から離れていきました。私の心は折れてしまい重度の鬱病、不安障害、そして睡眠障害と診断され暗黒の生活が始まりました。医者からは匙を投げられ自殺を試みる事 3 回、しかし周囲の助けもあって“誰もが再起不能”と思うような絶望の淵から這い上がることが出来ました。人一倍負けず嫌いな自分は熾烈な競争が繰り広げられる保険業界に入社して僅か 1 年足らずで日本新人 NO1 に、翌年には独立して 3 年後には TOT(トップ・オブ・ザ・テーブル)日本に百万人いると言われる生命保険営業マンの中で 70 人だけ選出される頂点に上り詰めました。その半生を全て書き記しました。皆様が人生の困難に直面した際に本書から希望の光を見出す一助になれば、これに勝る喜びはありません。

序章 成功者になる為に必要なのは“突破力”

日本に 100 万人いると言われる生保営業マンその中の僅か 0.007%のトップセールスが TOT と呼ばれる人達で私は「必ず達成する」と公言し 4 年で手にする事に成功した。

👉 人生において困難はつきもの～サッカーの強豪チームでプレーし周囲からはプロの道に進むことを期待された中学時代しかし高校に入学して孤独な彼女を放っておくことが出来ず夢より大切な人の人生を優先させた 15 歳の頃、中卒の自分でも裸一貫から経営者になった 18 歳の頃、急性膵炎で 19～21 歳と 3 年連続で病に襲われ重度の精神疾患を発症し自殺未遂を 3 回も繰り返した 20 代半ば……浮き沈みの激しい自分の人生を恨めしく思ったことが何度もありましたが、その度に「あの時に比べたらこの位はたいしたことはない、やってやれない事はない」と自分に言い聞かせてきた。重度の精神疾患から完全復活を遂げた私は 27 歳にして初めて就職を果たした。

👉 百万人いる生保営業マンのトップを目指す～保険に知識が全くなかった私がトップ営業マンになると公言した時、「あの新人、何ヶ月もつかな、

この世界の厳しさを知らないんだろう」と、事務所の人は私の事を見ていたそうです。負けず嫌いだっただ私の闘争心に火をつけたのは生保業界ならではの表彰制度でした。成績優秀者を称える組織 MDRT (Million Dollar Round Table) これは、世界中の生保・金融サービス専門職のトップクラスのメンバーで構成され最高水準として世界中に認知されているものです。MDRT メンバーの基準の 3 倍の成績を収めた人が GOT、そして MDRT の 6 倍の成績を収めた人が最高峰の称号 TOT と呼ばれます。

👉 新人ナンバーワン獲得、独立後には日本ナンバーワンに君臨～僅か 1 年で本当に新人ナンバーワンとして表彰され翌年外資系生保会社を退職し保険代理店を設立、開業して僅か 10 ヶ月で日本ナンバーワンの称号を勝ち取ることが出来ました。

そして今では世界の営業マンの憧れである“TOT”の登録資格を持っています。

31 歳の若さでその称号を手に入れた時は“奇跡”とさえ言われました。

私は年に一度、世界屈指の極上リゾート地で開催される外資系生保会社のパーティに招かれます。この日・史上最年少・最速でトップとなり代表者としてスピーチする事になり高鳴る鼓動を必死に抑え乍ら大勢の人達の視線が注がれる中をステージへ

👉 人生の困難を乗り越える度に人は大きく成長できる～外資系保険会社に入社してすぐ新人 NO1 という結果を残して意気揚々と独立、しかし開業から半年で会社の預貯金は 700 円、個人の手持ちも千円まで激減、ノンバンク 2 社から百万円を借り今月中に大口契約を取らなければお手上げ・私を信じて共にしてくれた仲間の一人はこの極限状態で体重が 20kg も減り肉体的にも精神的にも追い詰められた位です。しかしその困難を乗り越えれば一回り大きく成長し今よりも一段高い景色を見る事が出来る、そのことを、身をもって幾度となく経験してきました。

第 1 章 “挫折” を突破する

👉 「僕は絶対に東住吉 SC でレギュラーになる」「絶対に次の試合で勝つ」等私は何時も自分なりの目標を口に出していました。「お父さん、僕はどうしても東住吉でサッカーがやりたい」ある日・父に頼み込んで東住吉小学校まで連れて行ってもらった。

移籍しても物おじしない強いメンタル、記憶の中で小学校 5 年の私は「とにかく強いチームでサッカーがやりたくて東住吉 SC に来ました」と、大柄な上級生を前に挨拶いきなり白鳥の群れの中に現れたアヒル～当時の私はそんな存在だったと思う。

川崎市内の小学生のチームは約 70、東住吉 SC はその中でほぼ無敵でした。当時を知るコーチ達は「佑太は他の人ができた事が自分にできないと許せない、相手よりも先ず自分に勝つ事を考えているタイプ」と、当時を知るコーチ達は皆そう証言します。

👉 突破力の原点「心のふるさと」との出会い～大西監督はもともと徳島県立池田高校出身、過去に野球の春の甲子園大会に出場し 11 人で戦ったことから有名になった、その後、夏の甲子園大会で優勝しジャイアンツの水野雄仁投手等輩出の超有名校その野球部を率いた蔦監督の献身的な指導姿勢に感銘を受けて

大西監督も次世代を指導する事に目覚めたそうです。大西監督と東住吉 SC の存在があったからこそ私は後で記す様に人生のギリギリの淵で転落しないで踏み留まった

👉悔し涙は夢に一步近づく為のエネルギー～はじめは 1000 人いた少年たちは試験を重ねるたびに減っていき私は最終選考まで残り、食堂で両親と食事を摂っていると、隣に子供達のヒーローのラモス選手がいて「ラモスさんこのボールにサイン下さい、セレクションで最終選考に残りました、僕もヴェルディ川崎でサッカーがしたいです」「君、サッカーが上手いんだね。頑張ってるね」今でもサインボールは宝物としてある。

最後の 2 名に残り、憧れのヴェルディ川崎ジュニアユースの入団キップを手に入れた

👉必要としてくれる人との出会いが強さを育む～川崎フロンターレからも合格通知を貰い、稲葉監督から私と父親に会いたいと申し出があり「佑太は僕に育てさせて下さい、佑太の事はどう伸びるか私にはわかる」と言って私と父に頭を下げてくれた私はその本気度を見て気持ちは大きく変わりました。

👉挫折した時にかけてきた言葉は生きていく時の糧となる～母はエステティックサロンを経営、美人で社交的で経営の才もあったようで、父は若い頃は喧嘩が絶えなかったが公務員になって仕事一筋の人生、清掃車の運転手、性格も穏やかになり考え方も堅実でした、母は仕事が面白くなってしまい父はそれを許せずにいた。

コーチが目指していたのはチームプレーでとうとう K コーチは私を干すようになり私はその態度が頭にきて公然と K コーチに食ってかかるようになり稲葉監督に父親と退団の挨拶に行った時の言葉は今でも忘れません「佑太、サッカーだけは続けるよ！」

👉目の前の一人の為に下した大きな決断～学校が終わると片道 1 時間半かけて練習場に行き、夜 11 時に帰り地元で不良仲間と付き合いが多くなり髪を染めピアスをつけすっかり不良少年になっていました、それでも J リーガーになる夢をあきらめきれず髪の色は黒く染め直しピアスも外して柏レイソル青梅ユースのセレクションを受けて一発合格、しかし喜びもつかの間、中学 3 年生の終わりに父は遂に家を出ていった。高校生になってサッカー生活がスタートしたものの僅か 2 ヶ月で退団、大きな理由は当時付き合い合っていた彼女が家族とうまくいってなくて、この人を守ってあげたい、今思えば純粋で優しすぎたのかもしれません、サッカーも・学校も・家族も全部捨てた。

👉過酷な肉体労働で掴んだ新しい人生～16 歳で決意した、人より早く大人になる事彼女と同棲を始めて間もなく彼女は妊娠・出産、僅か 17 歳で父親になりました。その間も多摩地域でケンカに明け暮れてトラブルを重ねて底なし沼に沈んでいった。

👉成功への近道は成功者を見本にする事～家庭を持って子供も生まれたのだから子供の顔を見ている内に少しずつその責任が強くなり、私のことを特別かわいがってくれた枝川さんと年は 20 歳も離れていたが型枠解体の会社を経営多摩地区で NO1 の会社になっていた、その姿を見て仕事は年齢や学歴だけでなく人との人間関係をつくる事に本質があると思いました。だから私は貧乏な生活から抜け出すために枝川さんの下で仕事を覚える事にしました。

枝川さんが覚えていることは「真剣で仕事を覚えるのも早く、毎日いろんなことを質問してくる、経理・ヒトの使い方、仕事の取り方・お金の扱い方…それがあまりに真剣だった、もう一つは給料の前借に来なかった、若いのにしっかりしているなど思った」と。

👉守るべき人がいると一歩踏み出せる～私は半年後に独立に踏み切りました。

辛い状況は夢を目指している証拠、18歳の私は名刺に「小野寺興業」と、個人事業主です。毎日現場に持って行くお金は500円のみ、家の家賃は4万円そうやって毎月20万円貯金して「有限会社小野寺総建」に備えていた。

👉どんな相手にも怯まず、現状を把握する～独立1年目は死ぬ思いでした～当初は枝川さんは何のつてもない私に得意先を1件紹介してくれました、その1社を頼りに私は6・7人の職人を集めて仕事を始めた、ところが下請けのように扱われてお金は安いし仕事はきついし扱いは悪いし、と三重苦それなのに私はスパルタ教育で職人の不満は溜まっていきました。枝川さんはその当時の私を「独立後2年目から連絡を取り合う様になり仕事への情熱も凄くて同業者を次々蹴落として行く感じで得意先の社長とも対等に渡り合う、最初から税理士をつけて全てパソコンで入力経営に関する多岐な知識は凄く呑み込みが早く、2くらいを言うと10まで分ってしまう」と。

👉お金が絡む重要なことはオーナーと話す～この頃、経営者として一番気を使ったのは取引先との契約でした。各親会社の社長達と向き合い会話し、理由を言い、結果を貰う、そういう経験もまた、今の仕事の役に立っていると思います。

👉絶望的な状況でも救いの声には耳を傾ける～独立して2年目に中学時代の先輩の父親さん紹介先の社長さんから仕事を頂けるようになり、ドンドン仕事が増えて順調なある日、職人が給料の翌日に逃げてしまい、友人のユウキさえ信じられなくなった、私より一回り年上の鈴木社長は私が落ち着く迄と言ってユウキを預かってくれ、1ヶ月後からは私が本気で仕込み3年経ったら「ユウキ君は凄い」と言われる迄に成長した、今だから思える事で若い頃は1か100か極端に判断してしまいがちです、そんな時に鈴木社長始め多くの社長に根気強く見守っていただき今でも頭が上がりません。日頃真面目に仕事して信用を作り続けて初めて人は困難な時に手を貸してくれます。

👉経営者としての充実した日常の裏で～小野寺総建は4年目で売上げ1億円、職人10人程度・私とユウキで年上の職人を束ねて働いていました、仕事が順調にいく様になり枝川さんとゴルフもお酒もやる様になり毎日親しくしていたが病魔が体を蝕んでいて三度目の入院で「死にたいのか、酒はやめなさい」といわれ止めましたが、もう一つの家族との関係が仕事に夢中になって、ぎくしゃくし始めてきました。

第2章「孤独」と「病」を突破

👉会社解散と離婚のショックで発症した重度の精神障害を克服～悪化して再起不能とまで言われた最悪の状況から私を救ってくれたのは「ふるさと」の存在でした。

自分の“弱さ”に目を背けると、どん底に落ちていく

2008年当時に私は23歳経営者5年目でリーマンショックの危機で乗り切る為に先物取引にも手を出し更に悪くなって精神的に追い詰められ「パニック障害」と診断され精神安定剤を処方され服用しても何度も吐いてしまい勝手に飲むのをやめた、25歳の時にそんな私の姿を見るに見かねて女房が子供2人を連れて家を出ていったことが引き金で病状は一気に悪化していった。

👉 身内からの愛情を素直に受け入れる～家に一人ぼっちでいると寂しくて仕方がなくなり全て処分して会社の事務所を生活の場にしたことも、そんなある日私が離婚したことを聞きつけた母が「今日、行くよ」と連絡があり10年ぶりの再会でした。

身内の愛情を感じて心の中で「ありがとう」と言って涙が止まりませんでした。私は実に10年ぶりに立川の母の実家に戻る事になり祖父も「ご飯を一緒に食べるか」と言って鯖の塩焼きを作ってくれ最初で最後二人きりの食事の美味しさは今でも忘れません。

(前編)